

⑪ A Review of MCC's Accomplishments and Strategic Outlook for Knowledge-Based Systems

E.Lowenthal(MCC,米国)

発表要旨

MCCの新コンピュータ機構は大きな研究所3つと小さな研究所1つに分けられる。大きな研究所の方は5～10年位の期間でユーザ、企業などのニーズを調べ、科学的、技術的成果を発表する。

AI研は知識ベースシステムの機能の拡張を行なっている。ここではCYCプロジェクトが行なわれており、現代人の“常識”を持つ大知識ベースを作ることを目標としている。知識表現言語としてCYCLがある。

ヒューマン・インターフェース研はKBSを使い易くする研究を行なっている。グラフィック、自然言語インターフェース等を統合したインテリジェント・ユーザ支援を目指す。HITSというツールを開発しており、このツールで開発をすることによりより良いHITSを開発していく。

システム・テクノロジー研はシステムアーキテクチャと未来コンピュータアプリケーションの機能、使用感を向上させる為の技術の開発を行なっている。DBMS用の言語として分散オブジェクト指向DBMSを可能とするOrion-2等がある。

更に最近できた実験システム研は3年でハードウェア・アーキテクチャの設計のプロトコルタイプを作成するためのツールを作ることを目指す。以上のプロジェクトは1998年に完了の予定である。

質疑応答

質問：エンジニアリング知的データベースシステムは市場に向いていると言われているが、ラインの商業化の予定はあるか？

回答：ある。

質問：BASICリサーチに対してアプリケーションリサーチはどのような関係になっているか。

回答：大体はBASICリサーチであり、それ程アプリケーションにはお金をかけていない。DARPAはアプリケーションに多額の金をかけており、基金の少なくとも20%はヴィジョン・アプリケーションにまわしている。